公共事業	—	—	一・五八	一・五九	(−)三・〇
召使	—	—	—	—	—

				二・〇九	一・九三 (−)七・七
				一・六三	一・五八 (−)三・一

第五表　巴里の經濟的地位順地區の年齡二〇—三九の者一、〇〇〇人當り出生率

區分	一九一一—一九一三	一九二四—一九二六	增減
第一區	二五・五	三二・六	(+)七・一
第二區	三一・八	三三・三	(+)一・五
第三區	四二・四	三八・四	(−)四・〇
第四區	五六・七	四六・八	(−)九・九
巴里全體	四〇・五	三九・五	(−)一・〇

（北岡　壽逸）

レッダウェイ著「人口減少の經濟」

The Economics of Declining Population by W.B. Reddaway, pp.270.1939, George Allen and Unwin

十八世紀に於ける非常なる人口增加はマルサスの人口論を生み、十九世紀を通じて、少くともその前半に於ては經濟學上の最も重要なる理論であつた。時世は今や變つた。西歐洲に於ては人口は增加しない。或は減少する傾向さへある。そこで各國何れも人口の維持增加策に汲々として居る。然し其は何れも、政治上軍事上の理由よりする政策であつて、かゝる人口の停頓又は減少が、經濟上如何なる影響を與ふるかの問題は餘り多く論じられて居ない。この時に當り、レッダウェイ氏が人口減少の經濟的影響を論じて一著を出した事は吾々人口問題に興味を有するものゝ見逃すを得ないものである。

先づ初めに氏の經歷を一言すれば、氏はケンブリッヂに學び一九三二年數學の優等賞(Tripos)を得、一九三四年に經濟學の優等賞を得、英蘭銀行の經濟統計課に勤め、後ロシヤに行き、濠洲に行き、一九三八年一月ケンブリッヂのクレーヤ大學の Fellowship に擧げられたと云ふ、少壯學徒である。

本書の內容を概評すると、推理に一貫し、實證的研究は殆どない。人口減少の經濟上の影響と云ふが如き、廣範にして且、多樣な問題に就て、各種の起り得べき場合を推論するのであるから、全體を通じ、難澁にして一貫したる理論とか主張とか云ふ程のものはない。夫のマルサスの人口論とはその點に於て根本的に異る。この概評の下に氏の云ふ所を紹介することゝする。

第一編は英國の人口の最近の傾向及將來の豫測であるが、それはありふれた統計とチャールス博士の推測を紹介するに留つて何の特徵もない。

第二編が本論で、先づ第一に人口減少と失業との關係を論じ、それが第一章より第五章に及んで居る。氏は失業を、各個の業務の失業と一般的失業とに分ち、何れも各種の場合に就て詳細なる推論をやつて居るのであるが、その中のやゝ目ぼしい結論を紹介すると

一、青年の失業、所謂二十一歲の失業者は人口減少と共に減少する。蓋し青年の失業は少年勞働が行きづまつて解雇され、青年として新たなる仕事を見出さんとするものゝ失業であるが、人口減少の結果は少年の數が減少し、從つてその解雇も減少し、青年の數も減少し、その供給を減すると云ふのである。

二、經濟事情の變動に基く事業の衰退による失業は寧ろ增加する。何んとなれば過去に於て經濟事情の變動により或特定産業が、需要減少して衰退すべき場合に、それが比較的緩慢なのは、一般に人口の增加に伴ひ需要の增加したるに依る。然るに今や人口が減少的傾向を辿ると共に一面需要の增加なきを以つて、時勢の變に遭つて需要の減した産業の蒙る打撃は多きい。

三、人口減少は青少年勞働者の減少し、壯老年勞働者の比較的增加することを意味する。技術の進歩及社會事情の變動に依り、産業に更替ある時、年若き勞働者は新産業に適應すること容易なるに反し、壯老年者は産業の種類及場所の移動に困難を感ずる。

要之、特殊産業の失業は激しくなる(六八頁)

四、次に一般的失業即ち不景氣に依る失業も亦恢復が困難であると云ふ。何となれば、不況を恢復せしむる動因となるものは、(一)將來に對する見込 (二)資本の投資 (三)輸出貿易等である。然るに(一)人口減少の場合に於て生活必需品は需要の增加尠なし、需要の增加するものは何れかと云へば奢侈品なるが故に、趣味の變動等に依る變動の危險が多く、將來に對する安定性が尠い。(二)資本の投下も亦減少する。蓋し一般需要の減少に依る。(三)後述の理由に依り輸出も亦其の必要を減ずると云ふにある。

尙著者は之に對する對應策として資本の投資を增加する方途を論じて居るが、何等特筆すべきものは無い。

第六章及第七章に於て人口減少の收入に及す影響を論じて居るが、問題を二つに分ち、一は一般的收入の增減であり、二は收入の分配卽ち如何なる階級の收入が增減するかの問題である。第一の問題に付ては(一)少青年減じて、壯老年增加するが故に一人當りの生産は增加し、(二)親より受くる遺産は殊に土地その他人力に依り增加し難き資源增加し、(三)資本の積蓄は大となるべし(フランスに於ける資本の蓄積をその例とする)と云ひ、之を總合して、一人當りの收入は增加する。第二の分配の問題に付ては、賃銀は增加し、利子は下ると推論して居る。

第八章及第九章に於て人口減少の國家財政に及す影響を論じて居るが、其の要旨は

一、養老年金の負擔は增加する

二、失業保險の費用も增加する

三、教育費は減少する

四、國債費の國民一人當りの負擔は增加する(ナポレオン戰爭後の英國の國債は人口增加に依り輕減されたと云ふ)。

と云ふにある。

最後に第十章に於て國際貿易に及す影響を論じて居る。その要旨は

一、人口減少は食料及原料の需要を減少し、英本國の輸入を減少する。英本國の人口の停止及減少に伴ひ濠洲の産物の市場として英本國の見込之しきを虞れ、將來他の地方殊に東洋に市場を開拓する必要ありとの議論は濠洲に於て屢、聞く所であるが正當である。

二、生活程度の向上は需要の種類を增すが故に、その點より國際貿易の必要は增す、尠くとも減じない。

三、他面生活程度の向上は物の生産よりは旅行、歡樂、教養等のサービスを主とする事業に向ふが故に、その點より國際貿易は衰へる。

四、後進國の競爭力の大となることは否認するを得ない。

、と云ふにある。

最初に云つた如く本書は主として想像に依る推論で實證すべき材料が乏しい。且人口の減少と云ふことは、經濟に對しては、土地及自然の富源の如き人爲的に如何ともし難きものに對する關係を除いては兩樣の影響を及すが故に、それは何れが如何程大きいかと云ふ、分量の問題を測定して、差引何れが大きいかと云ふ事を定めなければならない。然るに經濟現象に於て將來の事に對し、その分量迄推定するが如きは殆んど不可能である。人口と失業との問題に關聯して常に繰り返さるゝ事であるが、人は一つの口と共に二本の手を以つて生れる。二本の手が一つの口を養つて餘りあれば、人口增加によつて生活は樂となり、國は富み、人口減少に依つて生活は苦しく、國は貧する。反之、二本の手が一つの口を養ふに困難を感ずる情況ならば影響はその反對である。本著の結論は人口減少の結果は二本の手は暇にならうが、暮しは樂になると云ふにあるやうである。唯最後に著者は國防上の必要と云ふものが一切の斯くの如き平和經濟の理論に頓着なく人口增加を極めて緊密ならしめて居ると云つて居るが、今、洋の東西何れを見渡しても、軍事政治的の情勢は、極めて接迫して、本著の如き經濟論を閑問題と見えしめるの感さへある。

（北岡　壽逸）

朝鮮農村社會衞生調査會編

「朝鮮の農村衞生」

―慶尙南道蔚山邑達里の社會衞生學的調査―

內地外地を問はず農村に對する各方面の關心は相當積極的な要求として現はれてゐる現狀ではあるが、これに應ずるには一般論的な研究か、或は概括的な說明に終るものが比較的多い。基本的な材料として提供されるものは左程數多く發表されてゐるやうに思はれない。特に科學の各分野より克明に問題の穿鑿に當ることは、非常に地味な仕事であるだけに簡單なやうで容易に果されるものではない。而もそれは一つの科學的知識だけではどうにもならず、一農村の固有の性格を把握する爲には他の科學的知識をも充分併用することによつて突止めねばならない。從つて農村の調査研究に當つて學問的な協同作業の重要性は今更云ふまでもないことである。

このやうな意味で、「朝鮮の農村衞生」を極めて興味深く讀むことができた。別題に示す通り、慶尙南道の農村達里に關する社會衞生學的調査であるが、その序に記されてゐる如くたとへそれが本調査の目的からは第二義的なものであつても經濟調査と相俟つて、極めて重要なる意味を發揮してゐるからである。

これは昭和十一年七月より八月にかけて四、五十日間に亙り、醫學生其の他十二名より成る調査團が現地の農村に滯在して勇敢にして眞摯なる科學のメスを振つた結晶である。

全編は七編より成り經濟調査として發表されてゐる部分は第一編のみであるが、こゝに於ては第二編以下の調査に先行して、研究方向の基準となるべき達里の農民層を土地所有の關係、營農上の諸條件から全調査農家一二七戸に付上中下層の三段に分類し、次編以下の調査の指標としてゐる。

第二編食糧と榮養、第三編住宅に就いて右の分類より夫々の相違を說明し、特に食糧は上層より下層に赴くにつれて急激に自給量が低下し、全消費量が遞減してゐるのみでなく、食糧不足の場合購入量より地主からの借